

# 夜ノ森の桜 今年から「桜まつり」の名称が復活



(画像:福島民友新聞みんゆうNet)

今年3月、政府はJR夜ノ森駅の周辺地区などに、住民が居住できる「特定復興再生拠点区域」を新たに整備することを決定し、国費で除染などを進めることになりました。富岡町は、住宅地や集会所などを整備したうえで、桜並木などの観光資源を活用したまちづくりを計画していて、将来的に1600人程度が住めるようにしたいとしています。

(2018.3.9 NHK WEBS WEB)

富岡町夜の森地区で、4月6日から桜並木のライトアップが始まった。今年には「桜のトンネル」のほかにも、宝泉寺の枝垂れ桜、夜の森児童館向いの関邸の太木連などの「春の名所」が闇夜に浮かび上がり、幻想的な光景が訪れた人を魅了している。

ライトアップは15日まで毎日午後6時〜同8時に行われる。震災と原発事故後は昨年に続き2度目の実施。15日は桜並木が歩行者天国となる。

例年より開花が早く、6日現在で散り始めているが、風に舞う花びらが春の夜の風情を演出している。

14日には同町の富岡二中学校を主会場に「桜まつり」も開かれる。これまで富岡町では、全町避難した町民同士が絆を強めるための「桜の集い」「復興への集い」、帰還困難区域を除く避難指示が解除された昨年4月には「復興の集い」を開催してきたが、今年には東日本大震災から8年を経てようやく「桜まつり」の名称が復活することになった。

## 東北各地から「まつり」の便り

### 歌津地区 三嶋神社・計仙麻(けせま) 大嶋神社合同大祭



東日本大震災で被災した宮城県南三陸町の歌津地区で3日、三嶋神社と計仙麻(けせま)大嶋神社の合同大祭があった。11年ぶりに伝統のみこし海上渡御が復活。震災後に三嶋神社にみこしを寄贈した静岡県裾野市の住民も参加し、海の平穏と地域の復興を祈った。

海上渡御は裾野市の三嶋神社のみこしも加わり、2基を船に載せ、伊里前湾を回った。海上で祈りをささげた後、一行は獅子舞を披露したり、笛や太鼓でおはやしを奏でたりして地区内を練り歩いた。

住宅の高台移転が進み、津波で流出した社務所が移転新築されたのを機に、震災後に途絶えていた祭りの開催の機運が高まった。実行委員長の及川均さん(70)は「祭りの道具や資料が津波で流されてゼロからの出発だったが、祭りをやろうという心意気は失わなかった。地域が丸となり、前に進みたい」と語った。

裾野市の住民とのつながりは、震災が起きた2011年にさかのぼる。伊里前小に支援物資を届けた住民が、車を止めて一夜を過ごした場所が三嶋神社の付近だった。裾野市にも同名の三嶋神社があり、住民から聞いた神社関係者が支援に乗り出した。

祭りの団長を務めた裾野市の植松由夫さん(64)は「歌津の人たちと縁ができて、兄弟みこしが実現した。今後も町の復興を応援したい」と話す。

祭りは4日もあり、町内の漁港や団地でみこしを披露する。

(2018.4 河北新報ONLINE NEWS)



ライフジャケット姿の神職、関係者のみなさんとともに船に乗り、海をすすむみこし(画像:河北新報)

### 石巻市雄勝町 八幡神社春季例大祭



みこしをかついで海に入っていく(画像:河北新報)

(2018.6 河北新報ONLINE NEWS)

宮城県石巻市雄勝町大須地区の八幡神社で4月30日、春季例大祭があり、海上安全を祈願する大みこし渡御や神楽の奉納が行われた。

大みこし渡御には地元男性ら約20人が参加。「ヨーサイ」「チヨーサイ」の掛け声を響かせながら地区を巡り、大須漁港で海の中に入った。

「ヨーサイ」には大きな海を表す「洋」を、「チヨーサイ」には潮を砕くという意味があり、海上の安全を神に祈るといふ。

千葉秀司宮司は「地元出身の若者やボランティアが今日のために駆け付けてくれた。多くの方が力を出し合ってくれて感謝している」と話した。

we support!  
**RQ**  
災害教育  
センター

MONTHLY

「東北に黒龍を送ろう!大作戦しんぶん」改め  
復興支援『すけ(す)きた(た)』  
「すけ(す)きた」とは  
宮城県登米市あたりの言葉で  
「ボランティアに来たよ」という  
意味である

「すけ(す)きた」とは  
宮城県登米市あたりの言葉で  
「ボランティアに来たよ」という  
意味である

MAY  
**11**  
2018

